

電気バス 充放電システム構築に向けた実証実験 出発式を開催

主催：  関西電力
power with heart

 大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

 阪急バス
阪急阪神東宝グループ

協賛：  

 BYD Build Your Dreams

場所：大阪大学 吹田キャンパス内

- ・ 電気バス導入に伴う最適な充放電システムの構築に向けた産学連携による実証実験（2021年2月16日リリース）の運行開始に伴う出発式を9月30日に実施しました。
なお、本件は国土交通省より自動車環境総合政策改善対策費補助金事業『地域交通グリーン化事業』の実施者として認定を受けています。
- ・ 阪急バスは、大阪大学の吹田・豊中・箕面の各キャンパスを結ぶ学内連絡バス5台のうち、大型電気バス2台の運行を10月1日より開始しました。



※導入車両（BYD社製 K8）



※テープカット

大阪大学学生および教職員のみご利用いただける特定輸送（注：一般のお客さまはご乗車いただけません）となりますが、来春を目途に、千里営業所管内の一般路線においても走行を計画しています。

✓ [出発式の詳細はこちら](#) ⇒ 「ひと・まちインフォメーション」

《関西初となる完全ゼロエミッション化》

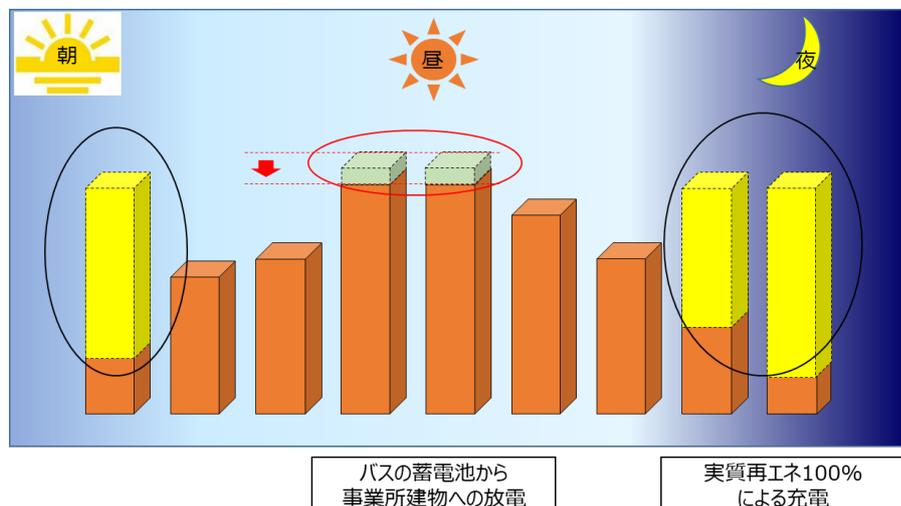
電気バスの走行中については、大気汚染物質やCO₂を排出しないゼロエミッションとなりますが、事業所内での充電時においても再生可能エネルギー100%の電力※を用いることで、関西のバス事業者として初めてとなる完全ゼロエミッション化を実現いたします。

※関西電力の「再エネECOプラン」（関西電力が日本卸電力取引所より調達した、太陽光・水力・風力発電などに由来する環境価値を付加した電気を使用するプラン）を利用することにより、実質的に再生可能エネルギーによる電力として取り扱うことができます。

《充電・放電によるエネルギーマネジメントの最適化》

電気バスは夜間電力を利用して充電を行い、運行を行わない土曜日や、夏季・冬季などの大学休講時の昼間時には、電気バスの蓄電池から営業所に電力を供給することで、エネルギーの効率活用とピーク電力の低減を実現します。

(電気バス導入後の電力需要イメージ)



電気バスの蓄電池 (容量：287kWh) から放電することによって、昼間ピーク時などにおける電力を低減(6kWh)します。

《BCP (事業継続計画) への活用》

災害などによる停電時にも、電気バスの蓄電池から営業所の一部に電力を供給することで、BCP (事業継続計画) の一環にも活用します。

《CO₂ (温室効果ガス) の排出ゼロ》

CO₂削減効果 . . . 年間 約66.08t-CO₂

《実証実験におけるSDGsの目標》



阪急阪神ホールディングスグループでは、持続可能な社会の実現に向け、同社グループの今後の取組の方向性を示すものとして「阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言」を策定しています。

阪急バスでは、この度の実証実験を通じ、2030年に向けて国連加盟国が合意したSDGs (持続可能な開発目標) に関する取組を進め、CO₂排出量削減についても、「阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言」に掲げる目標値達成に努めてまいります。

